

高幡50年のあゆみ（市制施行50周年特）

〈高幡の50年〉

平安時代に創建された名刹高幡不動尊がある高幡地区は、古くから開けた土地でしたが、江戸時代から明治時代まで、戸数は30数戸、人口は200人に満たない純農村でした。明治22年（1889）4月の市制・町村制施行により、程久保・三沢・百草・落川・平（南平）・平山の各村と合併して、七生村の一部となりました。

大正14年（1925）に、府中～八王子間に玉南鉄道（現在の京王線）が開通し、高幡駅（昭和12年高幡不動駅と改称）が開通したことで、駅の周辺が、町場として発展し始めました。

戦後の昭和33年（1958）2月1日に、七生村が日野町と合併すると、日野駅とともに、町の核となる地域となりました。同年5月5日に多摩動物公園が開園したことで乗降客も増え、一層の発展を遂げることとなりました。

翌34年9月から翌年にかけて、潤徳小学校が現在地の新校舎に移転し、その跡地に七生農業協同組合が新築移転し、現在に至っています。

38年11月に市制施行が行なわれ、翌39年4月には多摩動物公園線が開通、高幡不動駅が現在地に移転しました。この頃から七生地区では、大規模な住宅開発が行なわれ、都営住宅・公団住宅・民間住宅団地の建設が行なわれ、農村だった高幡は、その景観を大きく変化させました。また、40年11月高幡郵便局開局、49年4月日野消防署高幡出張所開設、54年10月七生公会堂開館、日野市役所七生支所が七生公会堂へ移転、55年5月高幡図書館開館など、駅周辺には次々と公共施設が整えられていきました。さらに昭和63年から始まった高幡土地区画整理事業（平成15年1月31日竣工）、平成12年1月10日の多摩都市モノレールの全線開通、高幡不動駅改良工事ならびに周辺の再開発事業などにより、かつての高幡周辺の面影を残すのは、高幡不動尊境内付近のみとなってしまっています。

〈写真でたどる高幡の50年〉

時の流れてと共に、街の風景はどんどん変わっていきます。少し前の街並みも、変わってしまうとなかなか思い出すことが出来ません。しかし、写真はそのような、失われてしまった私たちの記憶を確実に思い出させてくれますし、文字では書き残すことが出来ない細かな情報も伝えてくれます。それぞれの時代ごとの写真を収集・保存・分類して、市民の方々が必要に応じて見ることが出来るようにすることは、郷土資料館の重要な役割でもあります。

日野市郷土資料館を拠点として活動している「七生丘陵調査団」では、七生地区を被写体とする写真を収集・保存する取り組みを行なっていますが、昨年からは、高幡地区に重点を置いた写真の収集を行なってきました。多くの地元の方々の協力のおかげで、郷土資料館ではいままで収集できなかった、様々な分野の貴重な写真を集めることができました。調査団では、これらの写真を複写・保存するとともに、主要な写真を分類して、テーマごとに28枚の写真パネルを作成しました。以下に、その中の何点かを紹介します。

なお、パネルは、平成25年11月6日～27日、写真展「高幡の記憶—写真で見る高幡の今昔」として、京王線高幡不動駅南北自由通路にて展示を行ないますが、その後も順次展示を行う予定です。お問い合わせは、日野市郷土資料館（TEL 592-0981）まで。

（日野市郷土資料館・七生丘陵調査団）

*** 高幡不動駅周辺の景観の変化**



昭和 33 年頃 左上高幡不動駅、中央の森は若宮神社
潤徳小学校提供



昭和 43 年頃 中央、現在地に移動した高幡不動駅、駅前広場が整備されてきた

*** 高幡不動駅駅舎の変遷**



大正 14 年開業当時の駅舎



昭和 33 年 多摩動物園の乗降客のため降車専用の改札口が出来た
潤徳小学校提供



昭和 43 年の駅舎 39 年の動物公園線の開通により現在地に移動

*** 参道の変遷**



昭和 5 年の参道 若宮神社蔵

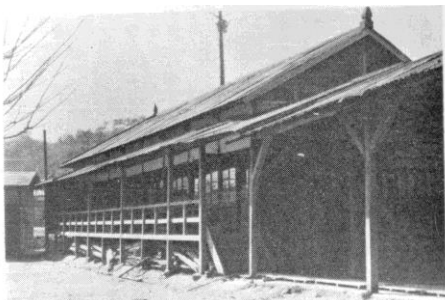


昭和 38 年 参道の入り口にアーチが架けられた

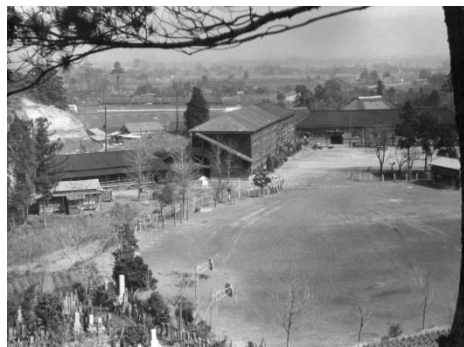


昭和 49 年 歩行者天国となった参道

*** 潤徳小学校校舎の変遷**



明治 11 年の校舎



昭和 32 年の旧校舎
現在の七生農協の場所にあった
潤徳小学校提供



昭和 48 年 創立 100 周年を迎えた潤徳小学校
(現在地の校舎)
潤徳小学校提供